

第 21 回運営評議会議事概要

1. 日時 平成 25 年 9 月 24 日（火）13：00～15：00
2. 場所 東京グランドホテル 3 階「蘭」
3. 出席者
委員 来栖委員、鈴木委員、瀧本委員、上長者委員、石山委員、猪ノ口委員、大森委員、川合委員、田中委員、村上委員、柚木委員
主務省 平形経営政策課長
事務局 中園理事長、小山理事、勝又理事、中村監事、伊藤監事、下條企画調整室長、坂田総務部長、川越業務部長、小林資金部長、権谷審理役、水上数理・情報技術役
4. 議題
 - 1 農業者年金事業の実施状況について
 - 2 年金資産の運用状況等について
 - 3 中期目標期間・平成 24 年度業務実績及び評価について
 - 4 農業者年金の加入推進について
 - 5 その他
5. 議事概要
 - 資料 1 から資料 4 について、（独）農業者年金基金から説明を行った。
 - その後、意見交換が行われ、加入推進の取り組み等について各委員から発言があった。

〈主な発言〉

- ・ 後継者の妻への政策支援もいただけるようお願いしたい。政策支援の要件をもう少し緩和していただきたい。
- ・ 2 万円の最低保険料が高いという課題については、なかなか農業所得が上がらない中で政策支援を活用して加入する手段もある。
政策支援の対象の拡大や要件を緩和するという課題は、「こうなれば加入したい」と思う方がどの程度いるのか、数字を積み上げつつ改善要求していくことが要求そのものの底上げ、力になるのではないかと思う。
- ・ それぞれの町村で取組みに濃淡があり、積極的な町村は加入率が高い。逆に本当に加入率の低いところもあるのも事実で、それらを重点的に推進していこうと話している。
体制的には、農協の方もそれぞれ役場との連携をしっかりと取ってやっていきたいと思います。その方向でしっかりと体制を整えながら推進を図っていききたい。
- ・ アンケート調査の結果、加入しなかった理由では、保険料負担が大きいということと、加入した人は、家族に勧められて入ったと答える割合が若い人ほど多い。このことから、

20代、30代の方は、実際に保険料を負担しているのは誰だろうというところが、普及推進の鍵にもなるのではないかという気がする。

年金は、貯蓄であることは間違いない。ところが保険金をもらうための掛金を払うという意識が強く、貯蓄をしているという意識があまりないのではないかと思う。貯蓄という意識を持っていただくようにするために、その切り口で少し推進の仕方を考えると良いのではないかと思う。

- ・ 親が真剣になってもらうよう、親を説得することが一番早いと思うことと、先ほど加入推進部長の話にもあったが、やはり加入推進というのは、うちもそうだが女性職員が一生懸命熱心になってやってくれた。それが良い結果となった。決して男性が駄目だというわけではないが、やはり女性のあのパワーというか独特なものがあるのだと私は感じている。そういうことも上手く活かしていければ有意義と思う。
- ・ 特に若手の方々に対するアプローチ、これが担い手政策の政策支援の一つに組み込まれる中で、今回の加入推進目標ができていると思う。そういう意味において、一つは基金の使命というか、20代の方々を勧誘していくには相当長期にわたって安定的な制度運営にしていくのだという、しっかりした長期戦略が必要である。それが若い方々を勧誘していく一つの重要なポイントになるように思う。農業の若い方に対するアプローチの仕方についてアンケート等もそういうところに少し集中しながら、現場の意見を吸い上げて、事務局において集中的な対策を打っていただくことを望んでいる。
- ・ 新規就農支援者がターゲットだと思う。国が目標とする、仮に、新規就農1万人、目標実績だとすれば、目標達成2万人だったと思うが、1万人とすればその50パーセントでも目標は5000人だ。それからみれば、4500人は決して無理な数字ではない。

以 上